



学校だより

令和4年 1月31日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284
HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka/>



今日も「おはようございます」

副校長 浅野 真弘

一年で最も寒い時期だとされる大寒を迎え、空気の冷たさが肌で感じられる日々が続いています。朝の校庭は霜が降り、薄い白色に覆われていたり、プールの水面が一面凍っていたりと、学校でも季節の姿を目にすることができます。生活科の学習などで、子どもたちが氷を観察したり霜を踏んだりして、自然の様子を実感しています。一方で、2月が近くなると、待ち遠しいのが暖かい春です。立春(2月4日)間近となり、これから次第に春を感じられる機会が増えてくるかと思うと、気持ちがわくわくしてきます。

冬来たりなば春遠からじ。大変だと思ふこともみんなで力を合わせて耐え抜き、その先にある楽しい時期を迎えられることを心待ちにしています。

ところで、朝の挨拶「おはようございます」には、なぜ、「ございます」という丁寧な言い方が付くのでしょうか。「こんにちは」や「こんばんは」には「ございます」は付きません。調べてみたところ、それぞれ言葉の由来が違うからだそうです。「おはようございます」という言葉は「歌舞伎」から来ていると言われています。歌舞伎は400年くらい前から演じられるようになった伝統芸能で、派手な衣装や化粧が特徴的です。歌舞伎役者は、この準備に時間がかかるので、芝居開始時刻よりかなり前に芝居小屋に行くそうです。その際、芝居小屋の裏方さんたちが、役者に対して、「お早いお着きでございます」と出迎えていたことが始まりだそうです。「いつも早く来て準備して大変ですね。ご苦労さまです。」という相手を労う思いやりの気持ちが込められているのです。その後、これが「おはようございます」に変化したそうです。ちなみに、「こんにちは」「こんばんは」は、もともと後ろに「ご機嫌いかがですか」といったような言葉が付いていたものが省略されたと言われていて、日中や夜に相手の様子を思いやる気持ちが込められた挨拶だそうです。どの挨拶も、由来の違いはあっても、相手を思い、大切にすることを表していることは共通しているようですね。

これまでも、毎日、子どもたちに当然のようにこの「おはようございます」の言葉を発していましたが、この話を聞いてからは、子どもたちに挨拶するときの心持ちが変わりました。この言葉に込められた「労い」や「感謝」という本来の意味をかみしめながら毎日、「おはようございます」と声をかけています。自分でも、これまで以上に笑顔になっていると感じます。「今日も楽しくて、いろんなことを学ぶことができる榎が丘小学校にようこそ。今日も元気にすごしましょうね。」と心の中で思いながら、かけがえのない本校の子どもたちに心を込めて挨拶をしています。

いよいよ年度末を迎え、子どもたちの意識の中にも、もうすぐ卒業・進級の時期なのだという自覚が芽生えてきているように感じます。コロナ禍で今は先の見えない状況の中ではありますが、まもなくやって来る春は、新しい学年に進級する季節です。その新しい春に向けて、大変だと思ふことはみんなで力を合わせて乗り切り、お互いのことを大切に思う気持ちが表れる「おはようございます」で毎日満たされる学校でありたいと思います。保護者や地域の皆様のご理解とご協力を引き続きよろしく願いいたします。